



没後50年 いわさきちひろ
大地の芸術祭が開幕します 7.13~
林篤子の「本のちから」(第4回)
こども映画会
イベント情報



名勝“清津峡”の誕生 (前編)

いよいよ7月13日(土)から、「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2024」が開幕します。2000年にはじまり、今年で9回目を迎えるこれまでの作品のなかで、越後妻有を代表する世界的なビジュアルとなったのが清津峡渓谷トンネルを再生したマ・ヤンソン(馬岩松、中国) / ADアーキテクツの「Tunnel of Light」(2018年)です。全長750mのトンネル全体が作品で、終点のパノラマステーションには峡谷美を水鏡で反転させる幻想的な空間が広がっています。

上信越高原国立公園内に位置し、国の名勝・天然記念物に指定されている清津峡は、日本三大峡谷のひとつとしても知られています。信濃川の支流・清津川が形成する、小出温泉(清津峡温泉)から湯沢町八木沢にかけての峡谷で、柱状節理(マグマが冷え固まる時に収縮した4~6角形の柱状の岩)による雄大なV字の岩壁が特長です。今では国内外から多くの人が訪れる超人気スポットですが、脚光を浴びようになったのは昭和に入ってからのこと。そこからの観光地としての歴史にも、紆余曲折のさまざまなドラマがありました。

1828(文政11)年、秋山郷を訪れた鈴木牧之は清津川の万年橋を渡り、「溪水涓々(けんけん)として巖を巡り、或白浪磐石に砕け散り、又は深淵蕩々として藍のごとく」と記しました(『秋山記行』)。1862(文久2)年、小出集落から約1.5キロ上流の峡谷入口に温泉場が作られ、1909(明治42)年には六日町営林署が峡谷に道を開いたといえます。1919(大正8)年の『中魚沼郡誌』では、景観を「奥の景」と紹介しています。当時、まだ「清津峡」とは呼ばれていませんでした。

「清津峡」の名付け親は、小千谷市出身の教育家、登山家の大平晟(おだいら・あきら)です。1925(大正14)年11月4日、大平は三俣村八木沢から峡谷を探索し、それまで三俣側で「下ツ沢」、小出側で「奥の景」、奥ノ沢などと呼ばれていた峡谷に「清津峡」と命名。日本山岳会の会報『山岳』(第20年第2号、1926年8月)で「紅葉の金城山と清津峡」と紹介しました。新しい名はすぐに定着したわけではありませんが、その後も彼は複数のメディアで紹介に努めました。

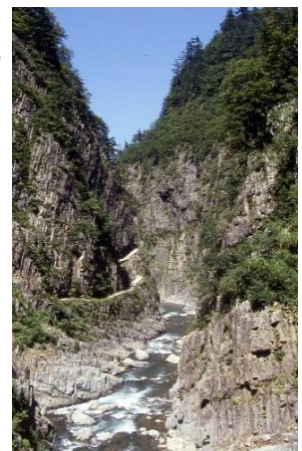
十日町方面から峡谷までは、県道魚沼線(現・国道117号)の山崎で左折して田沢線(現・国道353号)を通り、瀬戸峡の難所を越えて葎沢(むぐらさわ)から万年橋を渡ります。さらに対岸の小出集落から峡谷入り口までも、清津川に沿って山道をたどる必要がありました。『中魚沼郡誌』には「豊の耶馬溪と伯仲の間に在りて、地険僻(けんへき)なるを以て顕はれ

ず、嗚呼山水も亦遇不遇あるか」と記されています。豊後(大分県)の耶馬溪(やばけい)に比肩する美景でありながら、土地が険しく僻地にあることがネックとなっていたのです。転機となったのは、昭和初期の交通網の発展でした。

1927(昭和2)年11月15日、越後川口から十日町までの省営十日町線が全通。同月6日には豊野からの私鉄飯山鉄道が越後田沢まで開通。『飯山鉄道名勝案内』(1927)では、「奥の景」を「豊野駅より十日町に至る間、絶景奇勝の第一」と紹介しています。飯山鉄道は1929(同4)年9月1日に十日町まで全線が開通。さらに1931(同6)年9月1日には清水トンネルが開通して上越線が全通。同月5日の『十日町新聞』では奥の景の写真が掲載され、「愈々(いよいよ)世に出るか/石打駅からは二里余」と期待が込められています。

その前年の1930(昭和5)年にはさらに追い風が吹いていました。5月23日、小出集落から温泉までの通称「温泉道路」が開通。「小出温泉の交通の便は昔日の比にあらざる浴客其他に多大の利便」を与えると報じられました(『十日町新聞』5月25日、以下『十』と略)。温泉の清津館は「新道路が完成しまして全く畳のやうな平らな路を楽に来るやうになりました」と広告を出し(同前)、同じく古屋旅館の広告によると、この時期、山崎からの「貸切自動車」もあったようです(『十』9月5日)。十日町新聞社では「七ツ釜奇勝」などととともに「清津奥の景」の絵はがきも販売しています(『十』9月10日)。

そして紅葉シーズンを迎えた10月25日、『十日町新聞』では、「当地で紅葉とし云へば八箇峠と清津川奥の景だが(中略)奥の景はまづ七八分どころ、血の様な紅葉を藍を溶いたやうな清津上流の水がくぐって流れるさまはえもいはれぬ風情、(中略)新しい道路が出来、入口の小出温泉の設備も改められて鑑賞の客は今から多い」と報じられました。紅葉の名所として有名な南魚沼との郡境、八箇峠と並び称されるようになったのです。



【参考文献】

『南魚沼郡誌 続編 上巻』南魚沼郡誌編集委員会、1971
『湯沢町史』湯沢町史編集委員会、1978
『中里村史 通史編下巻』中里村史編さん委員会、1989

提供：(一社)十日町市観光協会

編集・発行／十日町情報館・NPO法人らいぶフォーラム

〒948-0072 十日町市西本町2丁目1番地1 TEL/025-750-5100 FAX/025-750-5103
「らいぶフォーラム」は、十日町情報館と図書館分室の図書館サービス業務を受託している市民による非営利団体です。2014年2月にNPO法人となりました。



ホームページ



Facebook



7月のテーマ図書

没後50年 いわさき ちひろ 1918～1974



今年2024年は、画家・絵本作家のいわさきちひろの没後50年にあたります。いわさきちひろ（本名：松本知弘＝まつもとちひろ、旧姓：岩崎）は、1918（大正7）年12月15日、福井県生まれ。14歳で洋画家・岡田三郎助の画塾に通い始め、戦後1947（昭和22）年に初の単行本『わるいキツネその名はライネッケ』（霞ヶ関書房）の挿絵を担当。66（同41）年に長野県の黒姫高原に山荘を建てると、以後は毎年ここで絵本の制作に取り組みました。74（同49）年8月8日に55歳で原発性肝ガンのため死去。代表作のひとつ『赤い蠟燭と人魚』（小川未明作、童心社）は翌75年に刊行されました。

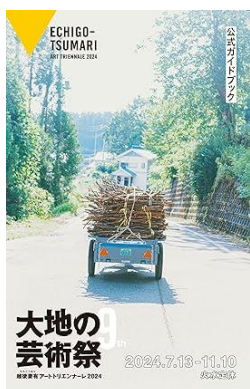
いわさきちひろの特設コーナーを設けています。場所は2階カウンター正面です。



大地の芸術祭コーナー

9回目の開催となる「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2024」が、いよいよ7月13日（土）からスタートします。情報館でも、いつもは芸術・スポーツのフロアにある芸術祭コーナーを、11月10日（日）までの会期中、2階の持ち込みPC専用席とに移動、拡大して設置しています。関連資料のほか、関連イベントや観光情報などのチラシも配布中です。

また、作品巡りになくてはならない作品鑑賞パスポートやガイドブック、マップ等も、情報館1階事務室で販売しています。



芸術祭公式ガイドブック

■児童向け

夏がきた！

『あつあつ』『プールにいこう！』など、夏の自然や楽しさを感じられる本を紹介します。



しゅくだいはお早めに

『小学生からのわくわく！おうち実験室』など、夏休みの宿題に役立つ本を紹介します。

■一般向け

夏がくる

『射手座の香る夏』『この夏の星を見る』など、夏にぴったりの本を紹介します。



短編フェア

『私たちが記したもの』『大作家でも口はすべる』など、暑い夏にも読みやすい短編やアンソロジーを紹介します。

新着地域資料

『雪解 大島幸男句集』

大島幸男／著 青磁社 2024.5

NEW



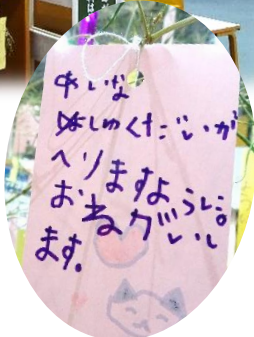
十日町市出身で、現在は大阪在住の大島幸男（おおしま ゆきお）さんが句集『雪解（ゆきげ）』を刊行しました。

大島さんは1948（昭和23）年、十日町生まれ。十日町高校卒業。俳句は高校時代の一時期に熱中したものの、進学・就職で完全に離れ、56歳の時に再開したとのこと。『雪解』は大島さん初の句集で、384句が収められています。



星に願いを ～七夕飾り～

恒例の七夕飾り。今年もみなさんが短冊に願いを込めて飾ってくれました。



スタッフによる日々の声をお伝えします

ねえ、きいて その46

最近、趣味でカゴバッグ作りをしています。作ったバッグはもちろん自分でも使いますが、家族や友人にもプレゼントしています。みんながとても喜んでくれて、こちらも嬉しい気持ちでいっぱいになります。趣味は人の心を豊かにしてくれるのだと感じました。

情報館の実用書フロアには、手芸コーナーにあるカゴバッグ製作の本をはじめ、様々な趣味に使える本が揃っています。気になる本をみつけたら、ぜひ手に取ってみてください。（小宮山）



手芸コーナー



本のちから(4)

十日町市で行っている10か月児健診のブックスタートで、保護者のみなさんに「絵本の必要性」についてお話させていただいています。

0歳から3歳までは、一生のなかで最も成長が著しい時期です。体はどんどん大きくなり、手の動き、足の動き、寝返り、はいはい、つかまり立ちなど、昨日できなかったことが今日はできるようになり、喜ばしい分、目が離せない時期でもあります。お子さんの脳でも、日々、素晴らしい成長が起きているのです。実はその成長を促すカギが、「言葉環境」なのだそうです。

乳幼児は、まだ言葉を発しなくてもしっかりと聞いています。全身で様々なことを感じとり、吸収しています。たくさん話しかけてあげたいのですが、話す言葉は意外と限られているのです。そこで、ぜひ絵本を活用してください、とおすすめし

子ども読書活動推進コーディネーター 林 篤子



ています。絵本では美しい言葉やふだん使わない言葉を伝えることができ、語彙を増やすことにも繋がります。一緒に読むことで、この時期に大切なスキップを育むこともできます。また、じつは読む本人も絵本の力によって癒されるという効果もあるようです。まさに一石二鳥ですね！

ブックスタートの目的は、大好きな人と一緒に楽しいひと時を分かち合うことや、親子間のコミュニケーションの促進です。お子さんと一緒に絵本を楽しんでいただけたらと思います。情報館のおはなし会などのイベントにも、ぜひ遊びにいらしてください。お待ちしております。

7月21日(日)は家読(うちどく)の日

「家読(うちどく)」は「家庭読書」の略で、「家族ふれあい読書」の意味です。毎月第3日曜日は家族で読書を楽しみましょう。

『はじめての地政学』

いつかやる社長／著 i k a／イラスト 飛鳥新社(ティーンズ 312イ)

ロシアがウクライナに攻め込んだのはなぜ？ 中国、やたらと太平洋に出てくるよね？ そんな世界史や地理、政治経済がいきなり学べます！

今、ニュースで話題になっている世界の出来事について、90枚のイラストで解説する「超」入門書。この本を読んで、少しでも日本の未来、世界の平和について考えてみませんか？

この本のおすすめは、世界の国々を動物で描かれているところです。日本は柴犬、アメリカはライオン、中国はパンダ等々。かわいい動物たちとわかりやすい文章での解説がとても気に入っています。

スタッフのおすすめ本 (松代分室・若井)



新着資料紹介 5月21日～6月20日分

【一般図書】

●『あなたの代わりに読みました』斎藤美奈子／著 朝日新聞出版(総記 019サ) ●『手仕事をめぐる大人旅ノート』堀川波／著 大和書房(松代 293ホ) ●『こんな世の中に誰がした？』上野千鶴子／著 光文社(社会科学 367ウ) ●『笑って健康と幸せをつかむ24の方法』鎌田實／著 婦人之友社(松之山 498カ) ●『モチベ0で作れる！最小限レシピ』経塚翼／著 毎日が発見(調理 596ラ) ●『スマート農業』中野明正／著 創元社(産業 614ナ) ●『はじめての60歳からのスマホ写真撮り方ブック』山崎理佳／著 日東書院本社(シニアライフ 743ヤ) ●『贗品』浅沢英／著 徳間書店(日文 913.6ア) ●『愚か者の石』河崎秋子／著 小学館(日文 913.6カ) ●『惣十郎浮世始末』木内昇／著 中央公論新社(日文 913.6キ) ●『控えよ小十郎』佐藤巖太郎／著 講談社(日文 913.6サ) ●『六十路通過道中』群ようこ／著 集英社(日文 914.6ム) ●『ピリー・サマーズ 上・下』ステイヴン・キング／著 文藝春秋(外文 933キ)

【児童図書】

●『人とくらす街の虫発見記』盛口満／文・絵 少年写真新聞社(児童一般 486モ) ●『釣って食べて調べる深海魚』平坂寛／文 福音館書店(児童一般 664ヒ) ●『漢字なりたち絵本』谷山彩子／作 あすなろ書房(児童一般 821タ) ●『いいわけはつづくどこまでも』岡田淳／作 偕成社(中条児童 913オ) ●『まねをしました』すずきみえ／作 文研出版(児童日文 913ス) ●『フルーツのようせい』小手鞠い／作 講談社(中里児童 913コ) ●『じゅんばんじゅんばんじゅんばんですよ』accototo／さく 大日本図書(川西絵本 Eア) ●『キャンプのずかん』スズキサトル／絵・監修 Gakken(絵本 Eス) ●『もぐちゃんのおさんぽ』たかどのほうこ／作 こぐま社(絵本 Eタ) ●『できあがり』彦坂有紀／さく もりといずみ／さく 福音館書店(赤ちゃん絵本 Eヒ) ●『いえのなかのものをそとへつれだしたおじさん』アーノルド・ローベル／作 好学社(絵本 Eロ)

【地域資料】

●『雪解 大島幸男句集』大島幸男／著 青磁社(地域 T911.1オ)

【夏休みこども映画会】

忍たま乱太郎の宇宙大冒険 with コズミックフロント☆NEXT

★太陽系のお友だち の段

★月ウサギがクレーターをかける の段

日時／7月27日(土)

①午前11時～正午

②午後2時～3時

※①・②とも同じ内容です

会場／1階 視聴覚ホール

入場料／無料

対象／幼児～小学生

定員／各回先着90人(要事前申込み)

申込み／専用チラシの申込用紙に記入してお持ちください。電話・FAXでもOKです。



【令和6年度 情報館主催 パソコン講習】

ワード初級

イラスト、写真の入った案内状などの作成を学びます

日時／7月16日(火)・18日(木)・23日(火)・25日(木)

※毎週火・木曜日(全4回)

午後2時～4時

対象／文字入力、マウス操作ができる人

受講料／5,000円

定員／先着15人

会場／1階 コンピュータ研修室

申込み／専用チラシの申込用紙に記入してお持ちください。電話・FAXでもOKです。



閉架書庫を公開します

日時／7月21日(日) 午後2時～5時

※当日1階カウンターでお申し込みください

その他の催し

●北村フミ子 絵画展

日時／7月6日(土)～10日(水)

※8日(月)は休館日

午前9時～午後7時 ※10日は午後4時まで

会場／ギャラリー

入場／無料



●全日本写真連盟十日町支部 新潟県サロン展

日時／7月12日(金)～15日(月・祝)

午前9時～午後7時 ※15日は午後4時まで

会場／ギャラリー

入場／無料

●十日町市書道協会創立30年記念 市民書作展

日時／7月25日(木)～28日(日)

午前9時～午後7時 ※15日は午後3時まで

会場／ギャラリー

入場／無料

●原水爆禁止十日町市協議会 平和展示

日時／7月26日(金)～8月9日(金)

会場／スロープ

7月のおはなし会

()内は対象

午前10時30分
～11時

◆情報館

6日(土)・13日(土)

／おはなしびよびよ(乳幼児)

20日(土)／読み聞かせの会 どんぐり

(幼児～小学校低学年)

27日(土)／おはなし「たまてばこ」(乳幼児)

◆川西分室

20日(土)／おはなしの会「ふきのとう」

(乳幼児～小学校3年生くらい)



◆松代分室

13日(土)／おはなしたんぽぽ(幼児～小学校低学年)

ティーンズ読書会2024

わたしの推し本紹介します

面白い本、心に残った本、影響を受けた本、大好きな本…。自分の“推し本”を紹介しあい、読書の輪を広げてみませんか？

小説、ノンフィクション、実用書などジャンルは問いません(コミック、雑誌以外)。心ゆくまで、おもしろい1冊を語りつくしましょう！



日時／8月4日(日) 午後1時30分～3時

対象／中・高校生(希望があれば小学校高学年、大人も可)

会場／第1集会室ほか 定員／20人(要申込み)

持ち物／大切な1冊

申込み／専用チラシの申込用紙に記入してお持ちください。電話・FAXでもOKです。

第90回名作読書講座

『女坂』円地 文子／著(新潮文庫)

明治時代、“家”の倫理に全てを捧げ、夫の妾選びのために上京した地方官吏・白川行友の妻・倫(とも)。妾とひとつ屋根の下に暮らす屈辱にひと言の文句も洩らさず、夫の乱行に耐えて病気で逝った彼女の半生を、坂を登り続ける苦しみにとたとえた円地文子の代表作です。

野間文芸賞受賞。

日程／7月18日(木) 午後7時30分～8時45分

会場／第1集会室 対象／中学生以上

定員／25人(申込み不要) 講師／庭野三省さん



十日町情報館 開館時間・休館日

開館時間 午前9時～午後7時

休館日 第2・第4月曜日(当分の間)

特別整理期間、年末年始(12/29～1/3)

〒948-0072 西本町二丁目1-1

電話／025-750-5100 FAX／025-750-5103